
プロジェクト **ASAF 対応**

項目 **開示に関する取組み（IAS 第 1 号の修正案に対するフィードバックの要約）**

本資料の目的

1. 本資料は、2014年9月に開催予定のASAF会議向けにIASBスタッフにより作成された「IAS第1号の修正案に対するフィードバックの要約（4B）」するアジェンダ・ペーパー（以下「本ペーパー」という。）について、概要及び発言案をまとめたものである。

現状

2. 現在の状況は、次のとおりである。
 - (1) 公開草案「開示に関する取組み（IAS 第 1 号の修正案）」を 2014 年 3 月に公表した。
 - (2) コメント期限は 2014 年 7 月 23 日であった。
 - (3) 115 を超えるコメント・レターを受け取ったのに加えて、アウトリーチ活動からインプットを受けた。

コメント・レター及びアウトリーチ活動からのフィードバック

3. プロジェクト及び公開草案での提案には広く支持が得られた。コメントは、主に次に関連する事項であった。
 - (1) さらなるガイダンスの要求
 - (2) 提案された修正案と IAS 第 1 号におけるその他のガイダンスやその他の基準書との相互関係の明確化に関する要求
 - (3) 使用される用語（例えば、現在や開示）
 - (4) 記載の変更

重要性

4. 重要性に関する提案とフィードバックの内容は、次のとおりである。

提案	フィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下を強調する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 重要性は、注記を含む財務諸表全体に適用される。 ➢ 特定の開示規定から生じる情報を、重要性があるかどうかを判定するために評価しなければならない。 ➢ 企業は、情報の集約又は分解を、有用な情報を不明瞭にするような方法で行ってはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの回答者から支持が得られた。 ・ 以下の提案を受けた <ul style="list-style-type: none"> ➢ より多くの重要性に関するガイダンスを求めるニーズがある。 ➢ IFRSでの要求される事項に加えて、“財務諸表利用者のニーズを満たす”情報の開示は、広くなりすぎて、運用可能ではないかもしれない。

分解表示

5. 分解表示に関する提案とフィードバックの内容は、次のとおりである。

提案	フィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 表示項目に関する要求事項は、特定の表示項目を分解することによって満たし得ることを明確化する。 ・ 財政状態計算書における表示項目を分解する例示を IAS 第 1 号に含める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの回答者から支持が得られた。 ・ 以下の提案を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ IAS 第 1 号の特定の表示項目は、“重要な場合”にのみ提供される（すなわち、分解される）ことを明確化すべきである。 ➢ 有形固定資産の分解に関する例示は、有用ではない。

小計の表示

6. 小計の表示に関する提案とフィードバックの内容は、次のとおりである。

提案	フィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業が小計を表示する際の要求事項を導入する。小計は次のようであればならない。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ IFRS に従って認識及び測定がおこなわれている項目で構成されている。 ➢ 何が当該小計を構成しているのかが理解可能となる方法で表示され名付けられている。 ➢ 毎期の継続性がある。 ➢ IFRS で定められている小計及び合計よりも目立つ形で示さない（純損益及びその他の包括利益計算書のみ）。 ・ 純損益及びその他の包括利益計算書における小計は、IFRS で要求している小計と調整しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの回答者から支持が得られた。 ・ 以下の提案を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 小計に関するガイダンスは、キャッシュ・フロー計算書における小計も対象とすべきである。 ➢ 小計に毎期の継続性を求める提案と IAS 第 1 号・IAS 第 8 号における継続性に関する要求事項との関係を明確化すべきである。 ➢ 純損益及びその他の包括利益計算書における小計の調整を要求する提案に関して、さらなる明確化が求められる。

注記の構成

7. 注記の公正に関する提案とフィードバックの内容は、次のとおりである。

提案	フィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業には注記の体系的な順序について柔軟性があることを明確化する。 ・ 企業が注記の体系的な順序を決 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修正案に対して全体的な支持は得られたが、財務諸表利用者の見解が分かれていた。 ・ 企業が注記の体系的な順序を決定

<p>定する際に、財務諸表の理解可能性と比較可能性を考慮すべきであることを強調する。</p>	<p>する際に、どのように財務諸表の理解可能性と比較可能性を考慮するかについて、より多くのガイダンスが必要であるという提案があった。</p>
--	--

会計方針の開示

8. 会計方針の開示に関する提案及びフィードバックの内容は、次のとおりである。

提案	フィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ IAS 第1号の第120項を削除する（有用でないおそれのある例示の削除を含む）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの回答者から支持が得られた。 ・ 以下の提案を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 重要な会計方針とは何かということについて、さらなるガイダンスが必要である。回答者の一部は、重要な会計方針の特徴について提案を行った。

次のステップ

9. 次のステップは、次のとおりである。

- (1) 2014年9月にIASBはフィードバックの要約について議論する。
- (2) 2014年10月にIASBは修正案を再審議する。
- (3) 2014年第4四半期に最終の修正案を公表することを目標とする。

ASAFメンバーへの質問

10. ASAFメンバーへの質問は、次のとおりである。

- (1) 注記の順序の決定について柔軟性があることを明確化する提案について、財務諸表利用者の反応は分かっていた。利用者は、注記の順序に柔軟性を与え

ると比較可能性が損なわれること、または情報を探し出すのが難しくなることを懸念している。この件に関して、どのような見解を持っているか。

- (2) 公開草案で示された修正提案や受け取ったフィードバックについて、その他にコメントはあるか。

ASAF 会議での発言案

11. ASAF 会議において、主に次の内容を発言する予定である。

(注記の順序)

- (1) 我々は、会計基準が財務諸表の表示の順番をより定型的なアプローチで定めることによって、企業の財務諸表間の比較可能性が高まり、利用者はより多くの便益を受けるだろうと考えている。このため、我々は、注記の順番を決定する際に柔軟性があることは、異なる企業間の財務諸表の比較可能性を低くし、利用者の便益を損なうと考える。その際、理解可能性を高めるために、注記の情報が他の注記情報と関連している場合には、注記情報について相互参照をする旨を要求することも提案する。
- (2) 仮に「比較可能性」が企業間の比較を指すものとした場合、企業が財務諸表を公表するまでに、他の企業の財務諸表の表示の形式を考慮することは不可能であるため、我々は、企業が「比較可能性」を考慮して財務諸表の表示の順番を決定することは極めて困難と考えている。

(小計の表示)

- (3) 現行の IAS 第 1 号では「営業利益」に関する表示が要求されていないが、当該情報は実務において利用者によって広く使用されている。「営業利益」について適切な定義付けを行う旨が困難という点は理解するが、シンプルに純損益から財務活動及び投資活動から生じる損益を除外したものとして定義付けることも可能ではないかと考えられる。このため、我々は、IASB が実務における事例についてリサーチを行った上で、どのような定義付けが可能かについて議論を促すことを提案する。

以 上